

移民流入がスペインの貿易に与える効果の分析

東京外国語大学外国語学部欧米第二課程スペイン語学科 4 年

宇野ゼミ

軽部千幸

目次

1. スペインへの移民の歴史
2. スペインへの移民の推移
3. 移民が送出国に与える経済効果
4. 移民が受入国に与える経済効果
5. 移民が貿易に与える効果
6. 先行研究のサーベイ
7. モデル
8. データ
9. 結果と考察
10. 結論
11. 参考文献

Appendix1-11

1. スペインへの移民の歴史

スペインへの移民が顕著になったのは1990年以降である。スペインには2012年3月時点で、人口の12パーセント以上を占める、5294710人の移民がいる。(IOM)

スペインへ移民の流入が始まったのは、1985年に外国人法(Ley de Extranjería / Law on the Rights and Freedoms of Foreigners in Spain)が成立してからである。しかし、この法律は移民を短期間のものとしてとらえ、移民を規制する意味合いが強く、移民の権利は弱かった。

1996年にこの外国人法は改正され、外国人に一定の主権(教育を受ける権利、平等権、法律相談、通訳をつける権利)が付与された。1998年にはスペインに住む外国人の権利と自由の法(Law on the Rights and Freedoms of Foreigners in Spain and their Integration, Law 4/2000)が可決し、非EUの外国人へ政治的・社会的権利が付与された。2001年にさらにこの法律は改正され(The Law 8/2000)、就労許可や移住許可、ビザの発行が規定された。

2001年に掲げられたグレコプランでは、1. スペインに望ましい現象として、移民をグローバルかつ調整的に設計する。2. 移民とその家族を、スペインの成長の貢献者として統合する。3. スペイン社会で平和に移民と共存するための受け入れ規則をつくる4. 難民の保護規定のマネジメントの4つが宣言された。

Nieves Ortega PérezはこのThe Law 8/2000とGreco Planの二つが、移民統合に大きな影響を与えた、と指摘する。

また、1985年、91年、96年、2000年、2001年、2005年と度重なる移民の正規化(不法移民を正規移民として認めること)が行われてきたこともスペインの移民政策の特徴である。また、移民相互協定を他国と積極的に結んできたことも特徴として挙げられる。(2000年にエクアドル・コロンビア・モロッコと、2000年にルーマニア・ポーランドと、2003年にブルガリアと相互移民協定を結んでいる。)これらの政策からスペインが国として移民に対し積極的な姿勢をとってきたことがわかる。

2. スペインへの移民の推移

スペインの移民ストックの内訳の図(Appendix6)を見ると、2012年の移民の出身国で多いのは、EU、ラテンアメリカ、北アフリカである。多い国順にルーマニア、モロッコ、エクアドル、イギリス、コロンビアである。また、1997年より増加が目立つのはルーマニア・ブルガリア・コロンビア・エクアドル・ボリビア・中国などである。また、その他の占める割合が増えていることから、移民の出身国が多様化していることがうかがえる。

スペインが移民先として選ばれる理由について、1. 見てきたように移民の統合プログラムが施行されており、移民に対してオープンであることがあげられる。^{*1}

*1 Joaquín Arango は スペインでは反移民感情が少ないと指摘した。その理由として1. スペイン人は移民が経済成長に有効だと信じており、2. 民主的な価値を体現するエンジンとして移民を採用しようという政治文化があり、3. 移民が目立ちにくく国民のアイデンティティーに与える脅威が少ない の3つを挙げた。

次に出身地域別にみていく。東欧2か国(ルーマニア、ブルガリア)からの移民が増加しているのは、主に経済的要因と考えられる。ルーマニアやブルガリアはヨーロッパの中では平均賃金が低く、高い賃金を求めてスペインや他 EU 諸国へ移動する。(Appendix 1)

一方ラテンアメリカからの移民が増加した理由に関しては経済的要因だけでなく、言語や文化の類似性が大きいと考えられる。Appendix6 を見ると、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルの3か国の移民が定着している。これらの国で移民が定着したのは移民ネットワーク(diaspora)が確立したことも一因であると推測される。移民のネットワークの拡大は移動のコストとリスクを低下させ、移動の期待収益を増やすため、移民が増加する。(Massey et al.1993)また、専門家の中にはラテンアメリカから地理的に近いアメリカではなくスペインを選ぶ移民が存在する理由の一つとして移民への充実した金融サービスの存在を挙げる人もいる。スペインではATMサービス、現地への配送サービス、手数料のいらない送金サービスなど、移民向けの多様なサービスが展開されている。(Many Latin Americans Opting for Spain)以上の3点から、スペインへの移民にかかるコストが低いためにスペインへの移民が増加したと推定される。

アフリカからの移民に関しては、スペインはアフリカとヨーロッパの間に位置し、古くからアフリカ大陸からヨーロッパへの入り口となってきた。(BBC news)北モロッコに位置するスペインの飛び地である Ceuta と Merilla のほか、カナリア諸島も近年では EU への入り口として移民たちの標的になっている。(Appendix2)多くのアフリカから不法移民が身を危険にさらしてやってくる。このため、移民内訳の上位国にはモロッコしか入らないものの、実際はより多くの移民がアフリカから来ていると考えられる。OECD International Migration Database の移民のデータは、住民登録に基づいている。そのため、住民登録をしていない不法移民はカウントされていない。Spanish Interior Ministry によると、2006 から 2009 年にかけて、毎年 9 万人以上のアフリカからの不法移民が追放されている。これらのことは公式データに表れるより多数の移民がアフリカから流入していることを示唆する。

しかし、近年では世界不況に端を発し 2013 年にスペインの失業率は 26.3%(CIA, World Fact Book2013)まであがり、この不景気は移民を多く雇う建設業やサービス業に冷え込みをもたらした(IOM)。そのため、職を失った移民に一定のまとまった失業手当を、帰国を条件に給付する Voluntary Return Plan*2 が行われている。

スペインのシンクタンクによると不況の結果スペインからの人口流出が進んでおり、2011 年には純移民数(入国者－出国者)はマイナスに転じている。*3

3. 移民が送出国に与える経済効果

*2 給付金の代わりに、参加者は居住許可と就労ビザを返還し、スペインに3年間戻ってはならない。彼らは失業手当の40パーセントを帰国前に受け取り、残りを帰国後に受け取る。失業手当は全部で40000ドルを超える。(Time)
*3 外国人の流出数は管理が行き届いておらず、2008年から2012年にかけて22万5千人と推定された人口流出数は3倍の70万人に上るといふ。(La nueva emigración española. Lo que sabemos y lo que no Amparo González-Ferrer, 2013、Investigadora del IEGD-CSIC (Madrid)) 流出先上位国(イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、アルゼンチン、エクアドル)から推察すると、移民の帰国が多いと考えられる。

スペインへの移民の多い東欧二か国(ルーマニア、ブルガリア)はそれぞれルーマニア 1069million \$、ブルガリア 206million \$(2012)を受け取っている。(OECD migration Matrix)また、ラテンアメリカにはスペインから 4billion\$の送金が送られている。*4*5

世界銀行のディリプラーサは 2013 年の世界の総送金額が、政府開発援助の 3 倍であったことを指摘し、また送金のメリットについて政府開発援助と違い、直接お金が家族に届くこと、政治や経済状況に左右されずにお金が届き、保険としての役割を果たすことを挙げている。その一方で、高い送金手数料が家族のもとに届く送金額を減らしているとの指摘をしている。

また、過去の多数の研究で、送金が国の貧困削減に寄与するとの指摘がされている。その一方で、一国全体の経済成長に対する効果ははっきりしていない。送金は外貨の獲得によって一見 GDP を上昇させるように思われるが、頭脳流出の問題やオランダ病を引き起こす可能性が指摘されている。(ここでのオランダ病とは外貨の流入によって、自国通貨が増価し、輸出にダメージを与えることである。)

4. 移民が受入国に与える経済効果

スペインでは低い出生率(Appendix3)を補うのに移民が一定の役割を果たしている。Betancor によると、不況(2009~)の前の 1998 年から 2008 年にかけて、純移民(入国人数-出国人数)が増加したことが勤労人口を維持(Appendix4)、増加させ*6、低い失業率と高い経済成長率(Appendix5)を保っていたと考えられる。1998 年から 2007 年にかけてスペイン経済は実質的に 3.8%成長し、失業率は 10 パーセント以上下がった。その間、スペインは移民をスペイン人人口の 15 パーセントに当たる、600 万人受け入れている。(Common sense)

5. 移民が貿易に与える効果

2013 年のスペインの輸出総額は 458billion \$ で世界第 13 位、輸入総額は 431billion\$で世界第 14 位である。(CIA The World Fact Book)この額はスペインの GDP の約 3 割を占める。また、主な輸出品目は機械、自動車、食物、その他消費財であり、輸入品目は機械類、燃料、化学製品、半製品、食物、消費財である。

1. 輸出入相手国(Appendix8)を見てみると、EU ついでラテンアメリカが多く、その傾向は 1995 年から 2011 年とあまり変わりはない。一方で北アフリカとの貿易は確実に増えており輸出入双方ともアルジェリア・モロッコの割合がこの 15 年ほどで上昇していることがわかる。また、ルーマニア・ブルガリアが輸出相手国として浮上していることが指摘できる。この傾向は一部移民受入国の変化と呼応している。(Appendix6)(特にルーマニアは 1995 年時輸出額が 94.1M\$であったが 2011 年には 1.71B \$ に、輸入額が 124M\$から 1.28B \$ に、モロッコは輸出額が 794M\$から 4.81B\$に、輸入額が 618M\$から 4.24B\$に増加している)

*4 (Pew Reserch Hispanic Trends Project より)

*5 各国送金層受取額に占めるスペインからの送金割合は以下のとおりである。

Ecuador (44%) Bolivia (42%). Argentina (35%) Venezuela (31%) Uruguay (29%).

*6 2000 年から 2012 年にかけて外国籍の人が 4149476 人増加したのに対し、スペイン国籍人口は 1733884 人の増加であったことから、スペイン人口増加の 70%を移民が占めたといえる。OECD population database および International Migration database (stock of foreign people by nationality) より、筆者計算。(Appendix7)

2. 輸出入総額の変化の国際比較グラフ(Appendix9, 基準年 2000 年=100)を見るとドイツ、スペイン、イタリアの上昇幅が大きい。移民ストックのグラフと比較すると、この 3 か国の特徴として移民受け入れの姿勢があげられる。ドイツの移民ストックは独仏伊西英のなかでも最大であり、またスペイン、イタリアは初期の移民数こそ少ないもののここ 20 年で急速に数が増加している国である。(Appendix10)

以上の 2 点から移民の存在が貿易にかかるコストを低下させ、受入国と送出国の間の貿易を加速させるという仮説を立てた。

6. 先行研究のサーベイ

Roger White& Bedassa Tadesse(2010)は OECD10 か国(アメリカ、カナダ、オーストラリア、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、オランダ、ドイツ、イタリア)と 67 か国の貿易と移民ストックとの関係について分析した結果、ノルウェー以外で移民が輸出入を増やすことを確認した。

Girma&Yu(2000)は 1981 年から 1991 年において26のイギリス連邦と 22 の非イギリス連邦諸国を対象に年次ごとの移民ストックと輸出入の関係を分析し、非イギリス連邦諸国においてのみ移民が貿易に対してプラスの効果を与えることを発見した。このことについて Girma&Yu は移民送出国に関する情報や彼らの制度が受入国に対して馴染みのないものであったときにのみ移民が貿易にプラスの効果を与えると推論している。

Shan Jiang(2007)は 1998 年から 2004 年においてカナダと 125 か国の貿易相手国との貿易と年次ごとの移民ストックとの関係を分析し、貿易の外延(貿易品目の数)にプラスの関係を見出した。一方、貿易の内延(1 品目あたりの利益額)には正の効果はなかった。製品当たりの利益にプラスが見られなかったことから、移民の情報が主に可変コストではなく、固定コストの削減に働きかけていると結論付けている。

Peri&Requena(2009)ではスペインの 50 の州と 77 の貿易相手国について 1993 年から 2008 年に関して分析を行っており、移民が貿易にプラスの効果を与えると結論付けた。また、アフリカ、アジア、ラテンアメリカ、東欧、中東を比較したときに、アフリカや東欧、中東で有意に移民の効果が観測できたことから、より馴染みのない国の移民のほうが貿易に与える効果が強いと結論付けている。

Hatzigeorgiou(2010)は 2002 年から 2007 年にスウェーデンにおいて 180 か国の貿易相手国と移民ストックとの関係を分析した。この結果、移民が強く貿易額の増加とかかわっていることを見出した。また、国レベルではなく州レベルでの分析を行ったのが Dunlevy(2004)であり、16 のアメリカの州と 87 の外国との間の貿易を取り扱い、移民の効果を確認している。Dunlevy はまた、社会の不透明さを示す変数として新たに Corruption を、また、Girma&Yu の仮説の検証のためにスペイン語、英語ダミーを導入している。結果、透明度の低い国の移民ほど新しい情報を見出すために、不透明な国の移民ほど強く貿易にプラスの影響を与え、また、英語・スペイン語の移民は新しい情報をあまりもたらさないことから貿易に与える効果が少ない・もしくは無であることを検証している。^{*7}

7. モデル

*7 そのほかカナダに関しては Head and Ries(1998)、アフリカとその移民先との輸出に関しては Tadesse and White(2013)が、フランスに関しては Briant&Combes&lafourcade(2009)が移民の効果を確認している。

1962年、オランダのヤン＝ティンバーゲンが「貿易における引力の法則」を提唱した。これによると貿易額は、経済規模の大きい国ほど大きく、国間の距離が大きいほど小さくなる。このことは、天体間の引力が天体の重量に比例し、天体間の距離に反比例することと似ている。よって式は次のように書くことができる。^{*8}

$$\text{Trade}_{ij} = \alpha \text{GDP}_i \text{GDP}_j / \text{Dist}_{ij} \cdots \cdots (1)$$

ここで、 Trade_{ij} は*i*国から*j*国への輸出(Export)/輸入額(Import)である。 $\text{GDP}_i \cdot \text{GDP}_j$ は*i*国、*j*国それぞれの経済規模である。 Dist_{ij} は、*i*国と*j*国の間の距離である。

以上が基本の貿易に関する重力モデルである。

この式に新しく変数を追加していく。

先行研究でも議論されてきたように、貿易の障壁には・輸送コスト・情報コストの2つが存在する。(ここでいう情報コストとは、貿易をする際に、現地の市場・制度・ニーズなどを把握するのに要するコストである。)

輸送コストに関しては、国間の距離に置き換えることができる。また、特に隣り合う国は特に輸送がしやすいことから、ここではさらに、近接性 Adjacent_i をダミー変数に加える。 Adjacent_i は、*i*国が*j*国に接していれば1、接していなければ0をとる。

次に、言語の類似性は、現地の市場・制度・ニーズの把握を容易にさせると考えられるため、 Lang_i (言語)をダミーに加える。 Lang_i は*i*国が*j*国と同じ言語を公用語としている場合に1、そうでなければ0をとる。

これに加えて、今回は、5で挙げた先行研究に倣い、移民が貿易相手国の市場に関する情報をもたらし、貿易にかかる情報コストを減らすと仮定し、変数に*i*国から*j*国への移民の数 IM_{ij} (今回は stock of foreign-born people を用いる)を加える。

以上より式は

$$\text{Trade}_{ij} = \alpha (\text{GDP}_i \text{GDP}_j) (\text{IM}_{ij}) / (\text{Dist}_{ij}) * \exp(\text{Adjacent}_i + \text{Lang}_i) \cdots \cdots (2)$$

と書ける。これを計算のために対数線形化すると

$$\ln \text{Trade}_{ij} = \alpha + \beta_1 \ln \text{GDP}_i \text{GDP}_j + \beta_2 \ln (\text{Dist}_{ij}) + \beta_3 \ln (\text{IM}_{ij}) + \beta_4 \text{Adjacent}_i + \beta_5 \text{Lang}_i \cdots \cdots (3)$$

と書き換えられる。

本論文ではスペインとその貿易相手国を対象として扱うため、*i*国がスペインの貿易相手国93か国で、*j*国はスペインである。

^{*8}基本の重力モデルの作成に関しては独立行政法人経済産業研究所、第13回「重力方程式」、第14回「重力方程式の理論と新しい推定方法」を参考にした。

望まれる結果は、経済規模 (GDP_iGDP_j) がプラス、距離 ($Dist_{ij}$) がマイナス、移民 (IM_{ij}) がプラス、近接性 ($Adjacent_i$) がプラス、言語 ($Lang_i$) がプラスである。

推論は以下のとおりである。

1. 経済規模が大きいほど財の生産量・消費量が大きいと考えられるので、輸入/輸出額が大きくなる。
2. 距離が大きいほど輸送費は高くなり、貿易の障壁となるため、輸出/輸入額は減る。
3. 移民が多いほど貿易相手国の貿易制度や、市場、ニーズに関する情報を得やすくなるため、貿易がしやすくなる。そのため移民が多いほど輸出/輸入も増える。
4. 隣り合っている国は特にモノの移動にかかるコストが小さいため、輸出/輸入が多い。
5. 言語が同じであれば、その国に関する情報を得るのが容易である。よって言語の類似性は輸出/輸入を増やす。

特に本論文では3の移民が貿易に与える効果を検証することが目的である。

8. データ

スペインの貿易相手国のうち 2003 年から 2012 年のデータが得られる 93 か国を対象として扱う。(Appendix11)よってサンプル数は 10 年分×93 か国で930となる。

スペインへの輸出、輸入額に関しては UN Comtrade のデータベースから得た。

スペインと貿易相手国の GDP に関しては World Development Indicatorsから GDP(current US dollars)を得た。

距離 (Dist), 近接性ダミー (Adjacent), 共通言語ダミー (Lang) のデータは Centre d'Études Prospectives et d'Informations Internationales (CEPII) の GeoDist から得た。

移民ストック IM に関しては OECD International Migration Database 内の、スペインにおける Stock of foreign people by country of birth から得た。

9. 結果と考察

まず初めにスペインの輸出相手国である全 93 か国を対象として回帰分析を行った(すべてのモデルにおいて年次ダミーを入れてある。)結果、輸入に関しては Adjacent を除くすべての変数に関する符号が期待通りであった。このことは経済規模が大きいほど輸入が多く、距離が離れているほど輸入が少なく、移民が多いほど輸入が多く、言語が共通しているほど輸入が多いことを示している。Adjacent は輸入に関して大きな影響を与えてはいなかった。

次に輸出に関しては、移民以外の変数の符号は予想通りであったが、移民に関してのみ有効な結果が得られなかった。そこで、言語ダミーを除いてもう一度回帰分析を行った。すると移民に関して正の符号が得られている。(t 値も有効である)しかし二つの結果を比較すると、言語ダミーのほうがより輸出に対する影響が大きく計測されている。よって、ラテンアメリカからの移民が多いために、移民の輸出に対する影響が出ているように見えるだけで、実際は移民の効果は限定的であると推測される。

次に、スペイン語圏の国を除いた 76 か国での分析を行った。結果、輸入に関しては、93 か国の分析と変わらず、Adjacent 以外の変数がすべて期待通りの符号を示した。これよりラテンアメリカ諸国を除いても、経済規模、移民が輸入にプラスに作用しており、距離がマイナスに作用していることが再確認された。

一方輸出に関しては 93 か国の時と同じく、移民の効果は観察できなかった。

この理由として、Girma and Yu(2000)や、Peri and Requena(2009)、Dunlevy(2004)が指摘してきたように、同じ移民であっても、その新規性によって移民の持つ効果が違う可能性がある、ということも考慮に入れなかったためだと推測する。扱った 2003 年から 2012 年に関しては移民の多様性は若干加速しているものの、大きく移民を構成する国籍が変わったわけではない。もともと出身者の多かった国の移民がさらに定着したというほうが適切である。(アルゼンチン、コロンビア、エクアドル、モロッコ、ルーマニア)また、言語が似ていてもともと貿易の際の情報コストが低いであろう、ラテンアメリカからの移民の増加は、大きく貿易の際のコストの引き下げに寄与しない可能性がある。

また、今回用いたデータにも若干の問題点がある。2で指摘したように移民統計には不法移民はカウントされていない。そのため、特にアフリカからの移民の数はかなり少なく見積もられている可能性が高い。

また、移民が輸出入に及ぼす影響を調べる際、他国からスペインへの移民が貿易を増加させるなら、スペインからの他国への移民に関しても同じくプラスの効果がある可能性が高いが、本論文ではそのことを考慮に入れていない。

以上より、移民と輸入の間には正の相関関係を見出せたものの、本論文には多々改善すべきところがあり、移民と輸出の間には有意な関係を見出せなかった。

93 か国 独立変数:輸入 回帰分析

概要								
回帰統計								
重相関 R	0.900774							
重決定 R2	0.811393							
補正 R2	0.808717							
標準誤差	1.191101							
観測数	930							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	13	5590.713	430.0549	303.1285	0			
残差	916	1299.549	1.418721					
合計	929	6890.262						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-30.9039	1.093504	-28.2614	7.5E-127	-33.05	-28.7579	-33.05	-28.7579
lnGDPij	1.071857	0.021589	49.6475	5.5E-262	1.029487	1.114227	1.029487	1.114227
lnMij	0.069083	0.026464	2.61045	0.00919	0.017146	0.12102	0.017146	0.12102
lnDistij	-0.82354	0.066627	-12.3604	1.44E-32	-0.95429	-0.69278	-0.95429	-0.69278
Adjacenti	0.132223	0.291395	0.453757	0.650111	-0.43966	0.704102	-0.43966	0.704102
Langi	0.821003	0.137472	5.972144	3.35E-09	0.551206	1.090799	0.551206	1.090799

93 各国 独立変数:輸出 回帰分析

概要								
回帰統計								
重相関 R	0.950268							
重決定 R2	0.903009							
補正 R2	0.901632							
標準誤差	0.662254							
観測数	930							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	13	3740.272	287.7132	656.0098	0			
残差	916	401.7399	0.438581					
合計	929	4142.012						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-14.4824	0.61333	-23.6127	1.17E-96	-15.6861	-13.2787	-15.6861	-13.2787
lnGDPij	0.835063	0.012038	69.36919	0	0.811438	0.858688	0.811438	0.858688
lnIMij	-0.01308	0.014714	-0.88871	0.374394	-0.04195	0.015801	-0.04195	0.015801
lnDistij	-1.22387	0.037045	-33.0374	3.1E-158	-1.29657	-1.15116	-1.29657	-1.15116
Adjacenti	0.777124	0.162034	4.796044	1.89E-06	0.459122	1.095126	0.459122	1.095126
Langi	1.16907	0.076435	15.29487	3.35E-47	1.019061	1.319079	1.019061	1.319079

93 各国 独立変数:輸出 回帰分析(変数:言語を除く)

概要								
回帰統計								
重相関 R	0.937194							
重決定 R2	0.878333							
補正 R2	0.876741							
標準誤差	0.741323							
観測数	930							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	12	3638.065	303.1721	551.6629	0			
残差	917	503.9469	0.54956					
合計	929	4142.012						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-14.6937	0.680439	-21.5944	6.16E-84	-16.0291	-13.3583	-16.0291	-13.3583
lnGDPij	0.770716	0.01259	61.2152	0	0.746007	0.795425	0.746007	0.795425
lnIMij	0.10832	0.013866	7.81218	1.53E-14	0.081108	0.135532	0.081108	0.135532
lnDistij	-0.90293	0.034174	-26.4217	7.7E-115	-0.97	-0.83586	-0.97	-0.83586
Adjacenti	0.93682	0.180986	5.176198	2.78E-07	0.581625	1.292015	0.581625	1.292015

76 各国 独立変数:輸入 回帰分析

概要								
回帰統計								
重相関 R	0.905653							
重決定 R2	0.820208							
補正 R2	0.81732							
標準誤差	1.247515							
観測数	760							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	12	5303.548	441.9623	283.9839	1.1E-268			
残差	747	1162.551	1.556293					
合計	759	6466.099						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-32.1305	1.188195	-27.0414	8E-113	-34.4631	-29.7979	-34.4631	-29.7979
lnGDPij	1.088134	0.023712	45.88929	1.5E-219	1.041584	1.134685	1.041584	1.134685
lnMij	0.074655	0.03035	2.459804	0.014127	0.015074	0.134236	0.015074	0.134236
lnDistij	-0.78325	0.071445	-10.963	4.9E-26	-0.92351	-0.643	-0.92351	-0.643
Adjacenti	0.141776	0.305793	0.463633	0.643046	-0.45854	0.742091	-0.45854	0.742091

76 各国 独立変数:輸出 回帰分析

概要								
回帰統計								
重相関 R	0.951195							
重決定 R2	0.904772							
補正 R2	0.903242							
標準誤差	0.700125							
観測数	760							
分散分析表								
	自由度	変動	分散	割された分散	有意 F			
回帰	12	3478.932	289.911	591.4437	0			
残差	747	366.1608	0.490175					
合計	759	3845.092						
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	-14.3486	0.667045	-21.5107	3E-80	-15.6581	-13.0391	-15.6581	-13.0391
lnGDPij	0.82438	0.013294	62.01043	8.3E-297	0.798281	0.850478	0.798281	0.850478
lnMij	0.007634	0.017034	0.448147	0.654177	-0.02581	0.041073	-0.02581	0.041073
lnDistij	-1.19722	0.040096	-29.8589	1.5E-129	-1.27593	-1.1185	-1.27593	-1.1185
Adjacenti	0.779989	0.17161	4.545114	6.4E-06	0.443093	1.116885	0.443093	1.116885

10. 結論

この論文では、スペインとその貿易相手国 93 か国に関して最新のデータ(2003—2012)を扱い、5 つの変数「経済規模」・「言語」・「移民」・「距離」・「近接性」と貿易額との関係を分析した。その結果先行研究と同じく、経済規模、言語に関しては貿易に対して正の相関関係があると分かった。このことは国内市場が大きければ貿易取引が大きいこと、また同じ言語を用いており、現地の市場・制度・ニーズなどの把握がしやすければ貿易取引が大きいことを示す。また、近接性も、輸出に関してのみ正の相関関係をもっていた。このことは隣り合う国は特に輸送が容易であり、貿易額が増えることを意味している。次に、距離に関しても先行研究同様、貿易に関して負の相関関係があった。このことは地理的に近い国ほど輸送コストが少なく貿易を増加させることを示す。

そしてこの論文のメインの移民であるが、輸入に関しては、正の相関関係をある程度見いだせたものの、輸出に関しては有意な相関関係を見出すことができなかった。(この理由に関しては9で推測した)

しかし、輸入に関してのみだが、スペインへの移民が貿易を増やすことを確認できたことは、先行研究と同じく、移民が貿易相手国の情報へのアクセスを容易にし、貿易にかかるコストを下げる可能性があることを示唆する。

将来的に少子高齢化が進み、国内市場が縮小するだろう先進国の経済にとっては、貿易は今後ますます重要になっていくと考えられる。近年、先進国の議論において、移民は労働力、消費の主体、社会保障の担い手といった観点から分析されることが多いが、移民が貿易を促進する力を秘めていることにもこれから注目していく必要があるだろう。

他方、経済的要因から移民を多数送出国にとっては、移民のネットワークが先進国への輸出を強化する可能性があることがわかった。このように移民が移民先において出身国とのパイプ役を果たし貿易の増加を促しているならば、送金以外の経路でも国の経済に貢献している可能性が高い。移民には頭脳流出やオランダ病の懸念があり、移民が経済成長に与える効果は懐疑視されているが、移民は母国の輸出促進に役立っている可能性が高い。

言語的異質性や距離といった大きな貿易障壁を乗り越える可能性が移民にはある。そのことに、先進国も途上国もこれから注目をする必要があるだろう。

11. 参考文献

インターネットサイト

・OSCE Office for Democratic Institutions and Human Rights, LEGISLATION ONLINE

<http://www.legislationline.org/topics/country/2/topic/10/subtopic/33>, 2014年12月17日閲覧

・ Fernando Betancor, Common Sense, Spain's Demographic Woes

<http://www.fdbetancor.com/2013/05/23/spains-demographic-woes/>, 2014年12月17日閲覧

- Time, Spain Tries to BuyOutImmigrants,
<http://content.time.com/time/world/article/0,8599,1852000,00.html>, 2014年12月17日閲覧
- Migration Policy Institute ,Spain: Forging an Immigration Policy,
<http://www.migrationpolicy.org/article/spain-forging-immigration-policy/>,2014年12月17日閲覧
- BBC news,
Africa to Europe Migration, <http://news.bbc.co.uk/2/hi/europe/6228236.stm>, 2014年12月17日閲覧
- Central Inteligence Agency, CIA The World Fact Book,
<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/sp.html>, 2014年12月17日閲覧
- International Organization for Migration,
<http://www.iom.int/cms/en/sites/iom/home/where-we-work/europa/european-economic-area/spain.html>, 2014年12月17日閲覧
- NPR.org, Many Latin Americans Opting for Spain,
<http://www.npr.org/templates/story/story.php?storyId=12555928>, 2014年12月17日閲覧
- Pew Research Center, Pew Reserch Hispanic Trends Project, Sources of Remittances to Latin America,
<http://www.pewhispanic.org/2013/11/14/3-sources-of-remittances-to-latin-america/>,2014年12月17日閲覧
- 官 庁 エ コ ノ ミ ス ト の ブ ロ グ 、
<http://economist.cocolog-nifty.com/blog/2011/02/remittances-ffb.html>, 2014年12月27日閲覧
- The World Bank, World Development Indicators ,
<http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators>, 2014年12月11日閲覧
- OECD, OECD Statistics, <http://stats.oecd.org/>, 2014年12月11日閲覧
- CEPII, GeoDist, http://www.cepii.fr/CEPII/en/bdd_modele/presentation.asp?id=6, 2014年12月11日閲覧
- UN Comtrade, UN Comtrade Database, <http://comtrade.un.org/>,2014年12月11日閲覧

論文

- Arango, J. (2013)Exceptional in Europe? Spain’s Experience with Immigration and Integration, 2013 report, Migration Policy Institute
- González, A.(2013), La nueva emigración española. Lo que sabemos y lo que no, Zoom Politico 2013, No.18

- White, R. and B. Tadesse (2010), CULTURAL DIVERSITY, IMMIGRATION AND TRADE: A STUDY OF NINE OECD HOST COUNTRIES, JCIFBE (2010) ,Volume 3, No. 1, pp. 75-102
- Girma, S. and Z. Yu(2000), The Link between Immigration and Trade: Evidence from the UK, Research Paper 2000/23, CENTRE FOR RESEARCH ON GLOBALISATION AND LABOUR MARKETS
- Jiang, S.(2007), Immigration, Information, and Trade Margins, Immigration, Information, and Trade Margins, University of Calgary
- Hatzigeorgiou, A.(2010), Journal of Economic Integration, No.15, pp.376-402,Sejong University
- Faustino, H. and N. Leitão(2008), Using the Gravity Equation to Explain the Portuguese Immigration-trade Link, Working Papers Department of Economics, School of Economics and Management, Department of Economics, University of Lisbon
- KIM, C. (2009) , THE ROLE OF HUMAN CAPITAL IN NETWORKS EFFECTS: EVIDENCE FROM U.S. EXPORTS, Sonoma State University
- Peri, G. &F. Requena (2009), The Trade Creation Effect of Immigrants:Testing the Theory on the Remarkable Case of Spain, CReAM Discussion Paper No 15/09
- Head, K. and J. Ries (1998), Immigration and Trade Creation: Econometric Evidence from Canada, *Canadian Journal of Economics*, vol. 31, No.1, pp.47-62
- Tadesse, B. and R. White (2013), Do African Immigrants Enhance Their Home Nations' Trade With Their Hosts?, The Journal of Developing Areas, vol.47, No.2, pp.199-228
- Briant, A., Combes, P., and M. Lafourcade(2009), Product complexity, quality of institutions and the pro-trade effect of immigrants. PSE Working Papers n2009-06. <halshs-00566772>
- 森田有貴(2006)、スペインにおける移民政策：ヨーロッパ諸国との比較において、龍谷大学大学院法学研究第8号、pp.107-128
- Massey,D., Arango,J., Hugo, G., Kouaouci, A., Pellegrino,A., and J.Taylor(1993), Theories of International Migration: A Review and Appraisal ,Population and Development Review, Vol. 19, No. 3, pp. 431-466
- Hausmann, R., Hidalgo, CA., Bustos, S., Coscia, M., Chung, S., Jimenez, J., Simoes, A., and M. Yildirim(2011), The Atlas of Economic Complexity. Puritan Press. Cambridge MA.
- 田中 鮎夢(2012)、「重力方程式」、RIETI 連載コラム「国際貿易と貿易政策研究メモ」 No. 13
- 田中 鮎夢(2012)、「重力方程式の理論と新しい推定方法」、RIETI 連載コラム「国際貿易と貿易政策研究メモ」 No. 14

書籍

- 早瀬保子・大淵寛(2010)、『世界主要国・地域の人口問題』、原書房

Appendix 1 2010年サブサハラアフリカ、ルーマニア、ブルガリア、ラテンアメリカと

スペイン、ヨーロッパ経済の比較 Data from database: World Development Indicators

Series Name	Sub-Saharan Africa	Romania	Bulgaria	Latin America & Caribbean	Spain	Euro area
GDP per capita (current US\$)	1519.075782	8139.146673	6580.813875	8921.709283	30736.00228	37810.39975
Life expectancy at birth, total (years)	55.35942225	73.45853659	73.51219512	74.15776055	81.62682927	80.86593582
GDP per person employed (constant 1990 PPP \$)	3902.657775	11348	18541	17566.36314	41483	44847.00707
Population growth (annual %)	2.704660805	0.593959184	0.658275447	1.136996771	0.460408305	0.251506263
School enrollment, primary (% gross)	98.91139984	96.72569	103.20182	110.844902	105.47834	104.5753098
Internet users (per 100 people)	10.1586952	39.93	46.23	34.70559067	65.8	71.10385974
Time required to start a business (days)	44.93478261	9	18	57	52	13.97058824

Appendix2 アフリカからヨーロッパへの移民ルート(出典:BBC)

① 西アフリカ港ルート

目的地:カナリア諸島

経由:リベリア、シエラレオネ、ギニア、ギニアビサウ、セネガル、ガンビア、モーリタニア、西サハラからモロッコの北岸

② 西サハラルート

目的地:カナリア諸島

経由:マリ、モーリタニア、西サハラ/南モロッコ

③ 中央サハラルート

目的地:カナリア諸島、スペイン、イタリア

経由:ニジェール、北モーリタニア、西サハラ/南モロッコ・北モロッコ・チュニジア・リビア

④ 東サハラルート

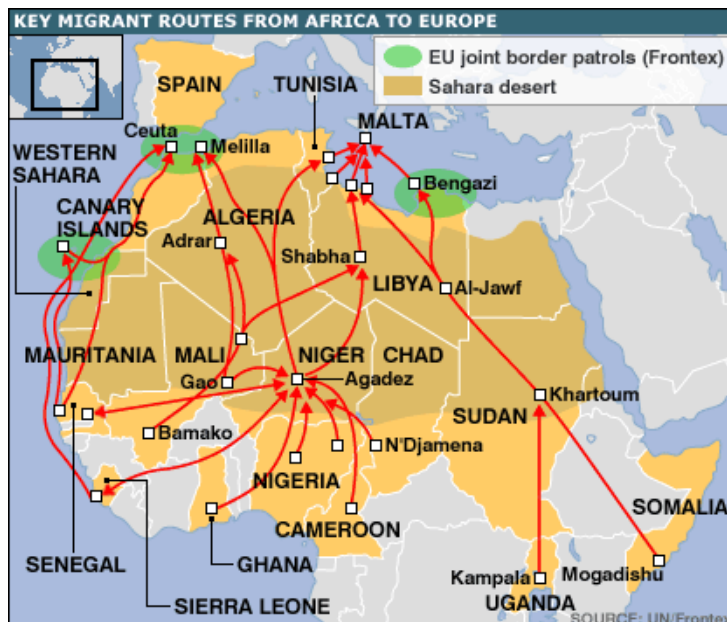
目的地:ランペデュサ、シチリア、マルタ

経由:チュニジア、リビア

⑤ アフリカの角ーリビアルート

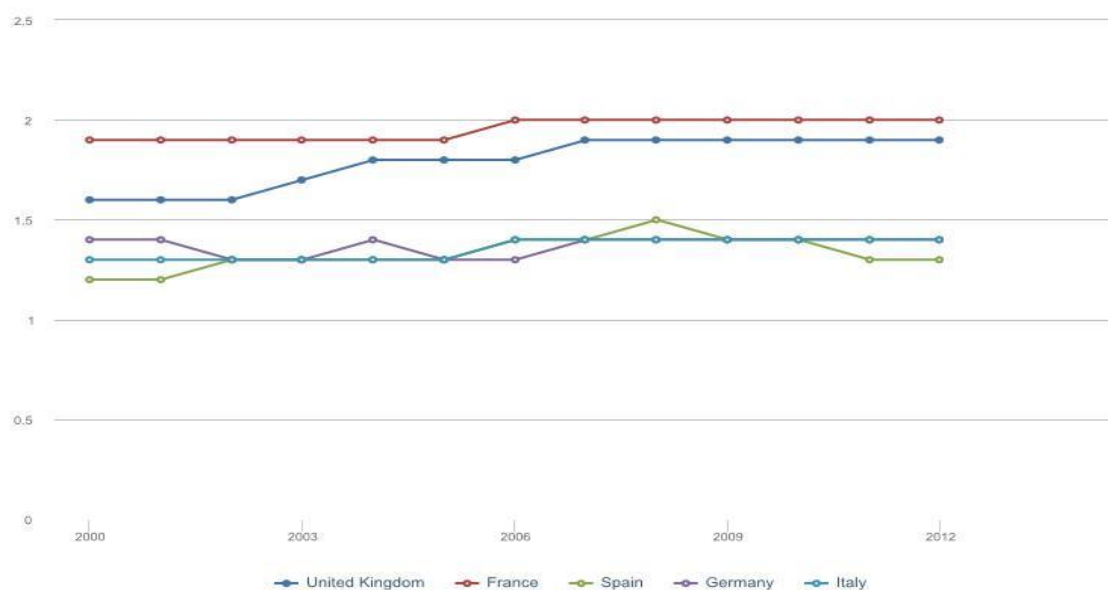
目的地:ランペデュサ、シチリア、マルタ

経由:スーダン



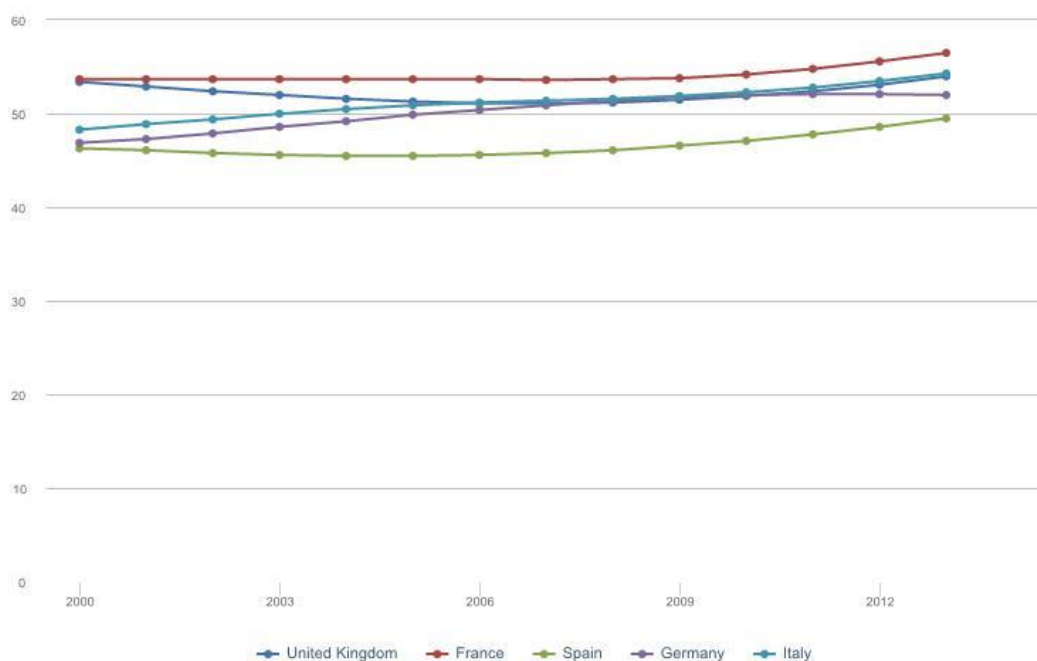
出典 (BBC)

Appendix3 合計特殊出生率の英仏西独伊比較(2000—2012)



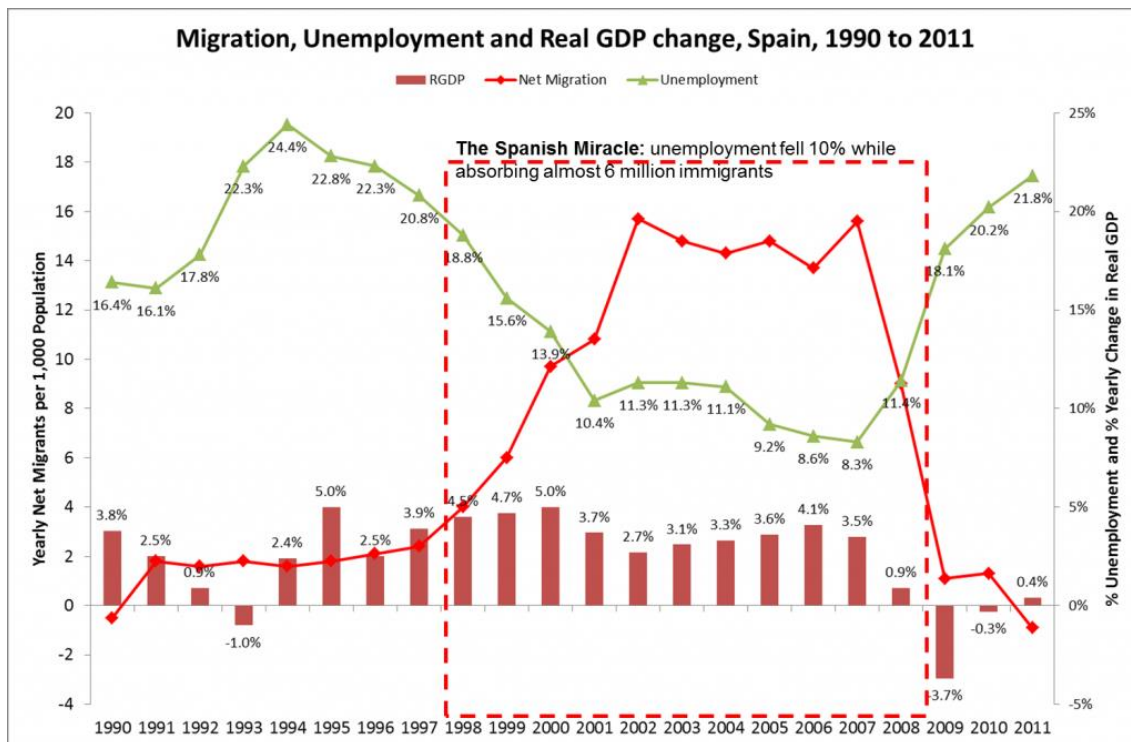
Series : Fertility rate, total (births per woman)
 Created from: World Development Indicators
 Created on: 12/17/2014

Appendix4 英仏西独伊の従属人口比率 (2000—2012)

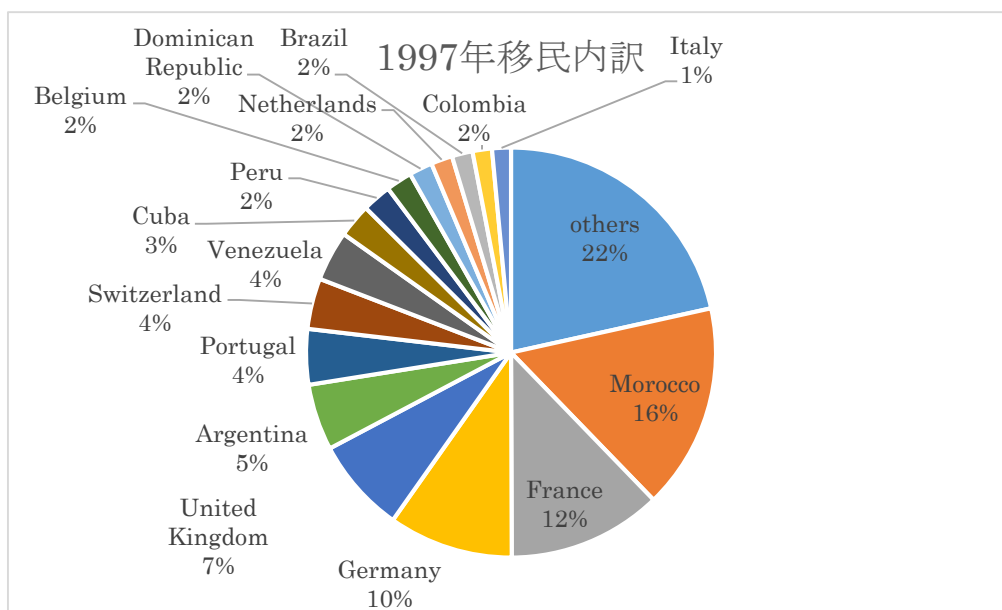


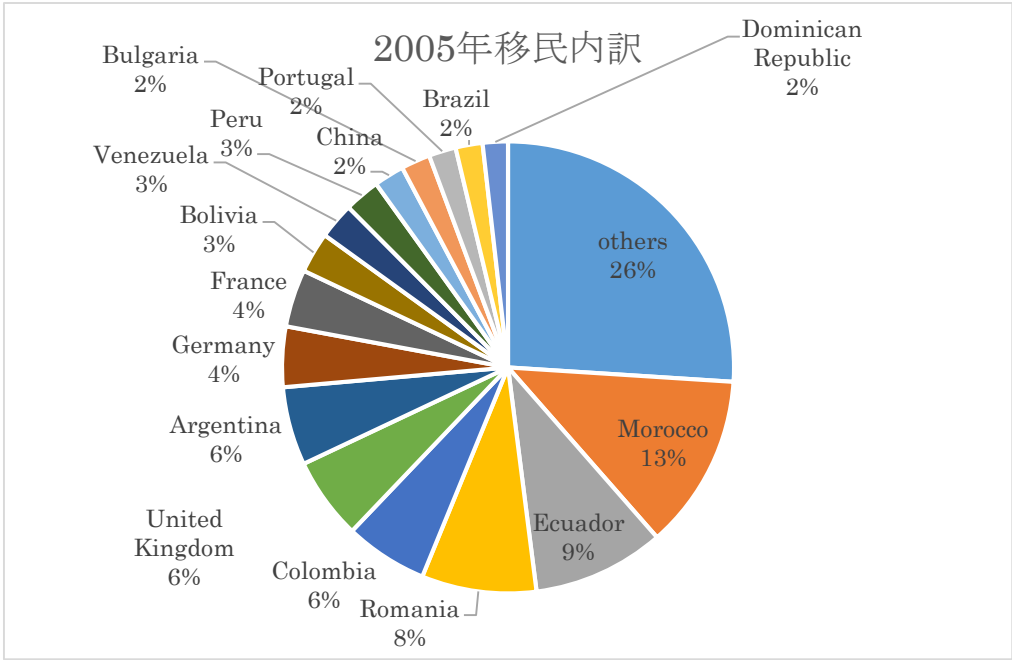
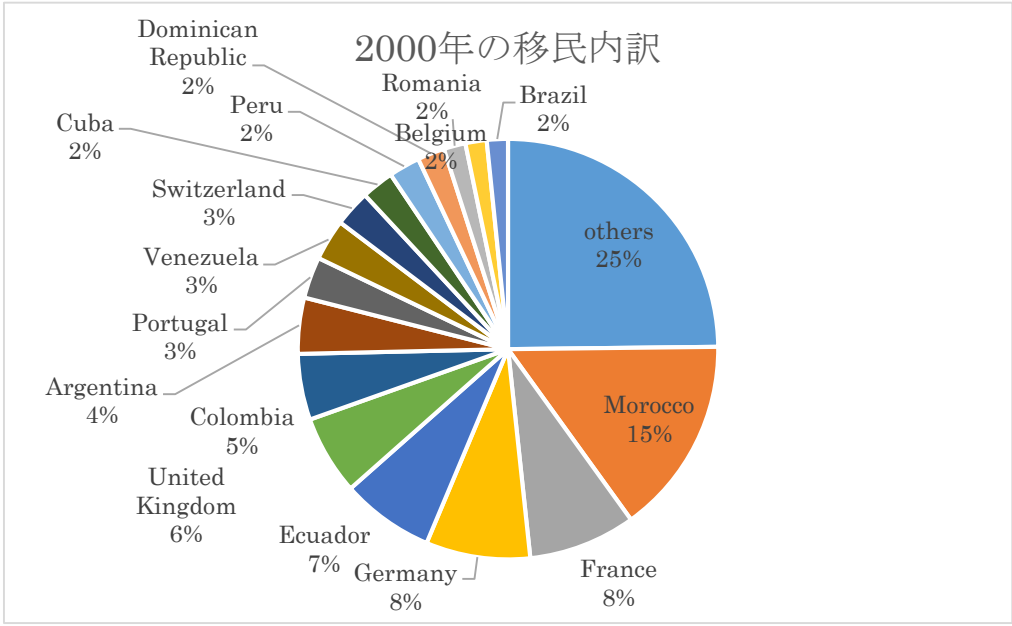
Series : Age dependency ratio (% of working-age population)
 Created from: World Development Indicators
 Created on: 12/16/2014

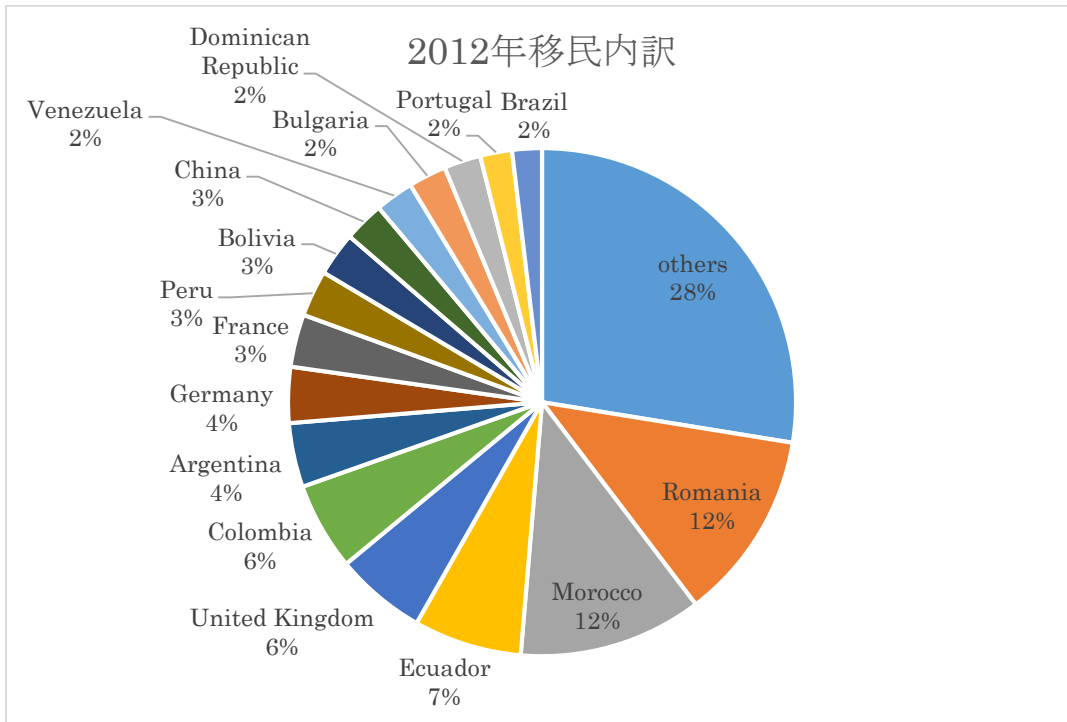
Appendix5 スペインの移民、失業率、実質 GDP の推移 (Common Sense より引用)



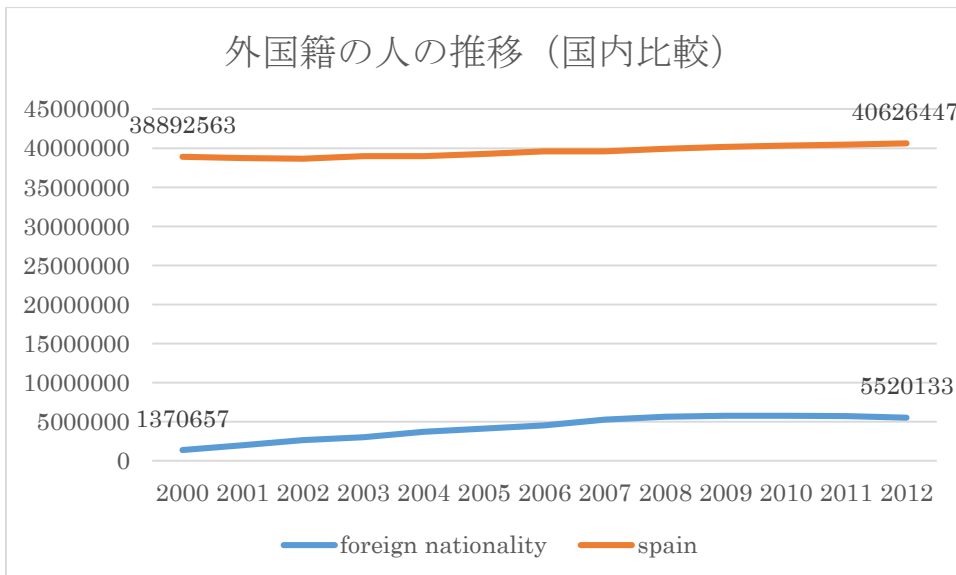
Appendix6 スペインの移民内訳比率(1997, 2000, 2005、2012) (OECD International Migration Database, Stock of foreign people by country of birth より引用)







Appendix7 外国籍を持つ人の推移（OECD International Migration Database Stock of foreign people by nation および OECD データベース内の population のデータから筆者作成）

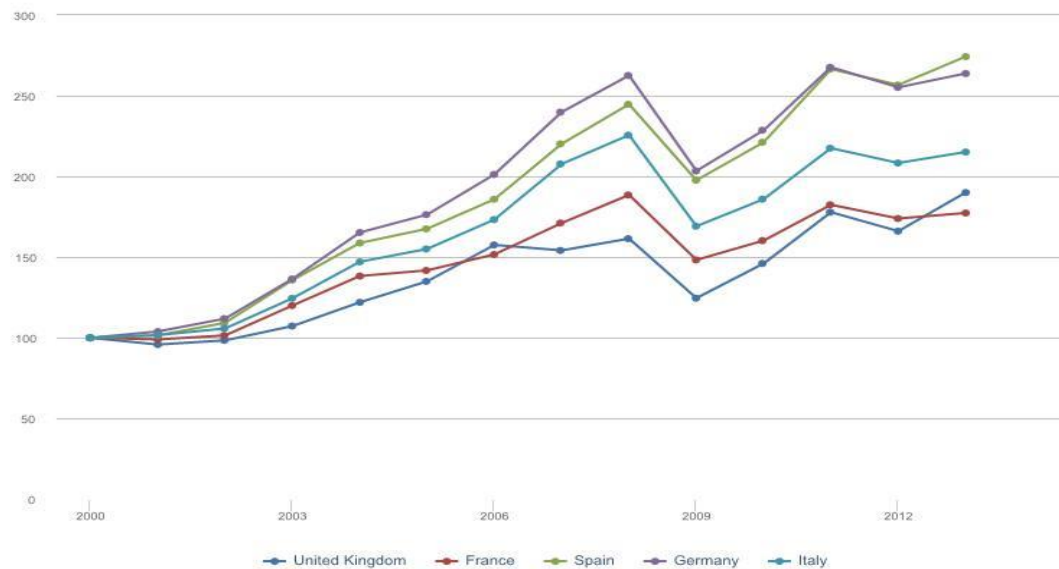


Appendix8 貿易相手上位国ランキング（出典： The Atlas of Economic Complexity (2011)）

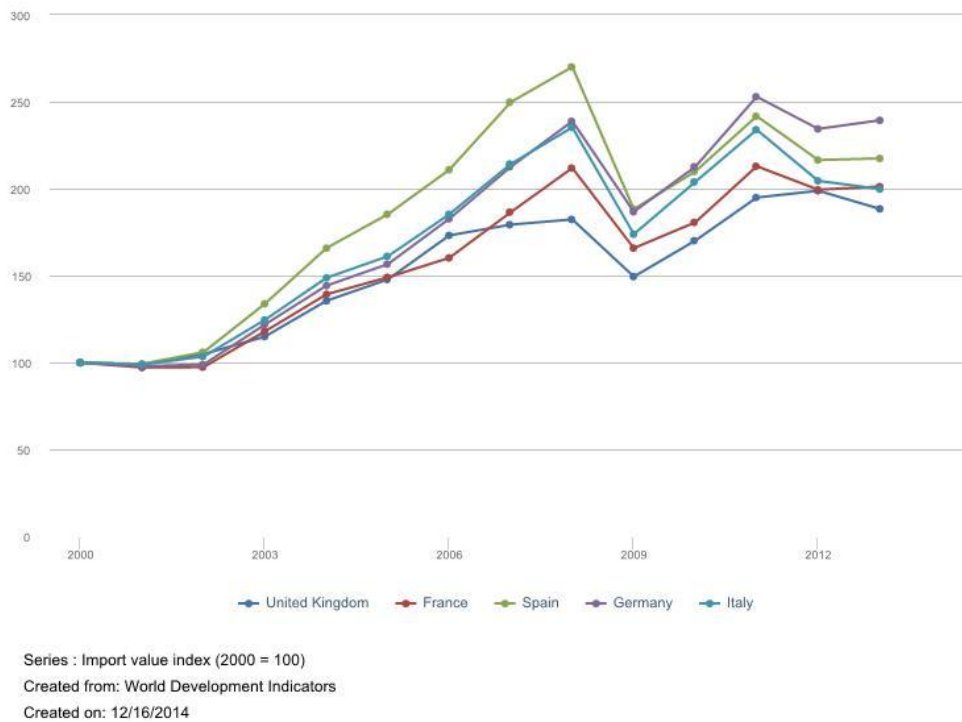
1995 年輸出		2011 年輸出		1995 年輸入		2011 年輸入	
1	France	1	France	1	France	1	Germany
2	Germany	2	Germany	2	Germany	2	France
3	Italy	3	Portugal	3	Italy	3	China
4	Portugal	4	Italy	4	United Kingdom	4	Italy
5	United Kingdom	5	United Kingdom	5	United States	5	United Kingdom
6	United States	6	United States	6	Netherlands	6	Netherlands
7	Netherlands	7	Belgium-Luxembourg	7	Belgium-Luxembourg	7	Portugal
8	Belgium-Luxembourg	8	Netherlands	8	Japan	8	United States
9	Japan	9	Turkey	9	Portugal	9	Belgium-Luxembourg
10	Switzerland	10	Switzerland	10	China	10	Russia
11	Argentina	11	China	11	Switzerland	11	Nigeria
12	Greece	12	Morocco	12	Sweden	12	Algeria
13	China	13	Poland	13	Russia	13	Saudi Arabia
14	Brazil	14	Mexico	14	Ireland	14	Mexico
15	Austria	15	Russia	15	Saudi Arabia	15	Iran
16	Morocco	16	Brazil	16	Libya	16	Brazil
17	Sweden	17	Algeria	17	Austria	17	Switzerland
18	Algeria	18	Japan	18	Brazil	18	Turkey
19	Turkey	19	Areas	19	South Korea	19	Poland
20	Mexico	20	Austria	20	Denmark	20	Japan
21	Norway	21	Czech Republic	21	Nigeria	21	Morocco
22	South Korea	22	Gibraltar	22	Finland	22	Ireland
23	Israel	23	Sweden	23	Mexico	23	India
24	Saudi Arabia	24	Australia	24	Indonesia	24	Sweden
25	Singapore	25	Bunkers	25	Other Asia	25	Czech Republic
26	Denmark	26	Saudi Arabia	26	Iran	26	Argentina

27	Hong Kong	27	Greece	27	South Africa	27	Other Europe
28	Canada	28	India	28	Norway	28	Indonesia
29	Chile	29	Norway	29	Morocco	29	Austria
30	Poland	30	Venezuela	30	Argentina	30	Denmark
31	Finland	31	United Arab Emirates	31	India	31	Hungary
32	Cuba	32	Canada	32	Thailand	32	Iraq
33	Andorra	33	Romania	33	Canada	33	South Korea
34	Australia	34	Bulgaria	34	Malaysia	34	Norway
35	Russia	35	Hungary	35	Algeria	35	Qatar

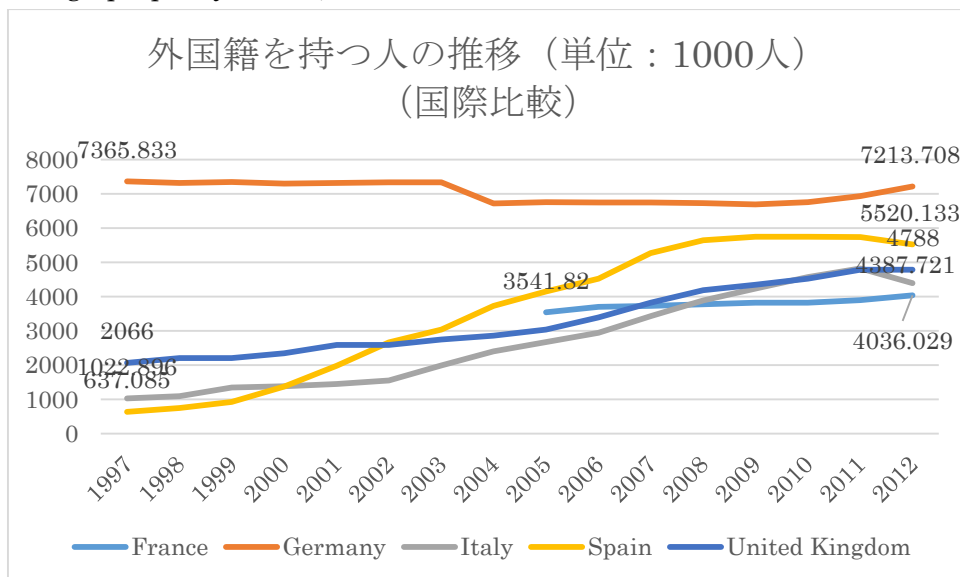
Appendix9 輸出入額の変化の国際比較(基準年 2000 年の貿易量=100)



Series : Export value index (2000 = 100)
 Created from: World Development Indicators
 Created on: 12/16/2014



Appendix10 外国籍を持つ人の推移 (OECD International Migration Database Stock of foreign people by nation, より筆者作成)



Appendix11 分析対象国全 93 か国（下線：スペイン語圏 17 か国）

Angola	<u>Colombia</u>	Gambia	Malta	Senegal
		<u>Equatorial</u>		
<u>Argentina</u>	<u>Costa Rica</u>	<u>Guinea</u>	Morocco	Sierra Leone
Albania	Cyprus	<u>Guatemala</u>	<u>Mexico</u>	Slovenia
Armenia	Czech Republic	<u>Honduras</u>	Mauritania	Sweden
Australia	Dominica	Croatia	<u>Nicaragua</u>	Togo
Austria	Denmark	Hungary	Nigeria	Thailand
	<u>Dominican</u>			
Belgium	<u>Republic</u>	India	Netherlands	Tunisia
Benin	Algeria	Indonesia	Norway	Turkey
Burkina				
Faso	Germany	Ireland	Nepal	Ukraine
		Iran, Islamic	New	
Bangladesh	<u>Ecuador</u>	Rep.	Zealand	United States
	Egypt, Arab			
Bulgaria	Rep.	Iceland	Philippines	<u>Uruguay</u>
Belarus	Estonia	Israel	Pakistan	<u>Venezuela, RB</u>
<u>Bolivia</u>	Ethiopia	Italy	<u>Panama</u>	Vietnam
Brazil	Finland	Jordan	<u>Peru</u>	
Canada	France	Japan	<u>Paraguay</u>	
Switzerland	United Kingdom	Kazakhstan	Poland	
Cameroon	Georgia	Kenya	Portugal	
<u>Chile</u>	Ghana	Liberia	Romania	
China	Guinea	Lithuania	Russian Federation	
Cote				
d'Ivoire	Guinea-Bissau	Mali	Saudi Arabia	